

倉敷市環境審議会（平成20年度第1回）議事録（要旨）

日 時 平成20年6月26日（木）

午前10時～12時00分

場 所 水道局庁舎3階 大会議室

出席委員 青山会長、井上副会長、青江委員、赤沢委員、阿川委員、市田委員
小田委員、小野委員、梶田委員、亀池委員、塩飽委員、裾分委員、
千秋委員、浜口委員、福留委員、本郷委員、安原委員、山田委員

事務局 <市民環境局> 三木参与
<環境部> 物部部長、橋野参事、祢屋参事、石橋次長、桑木副参事
<一般廃棄物対策課> 浅沼主幹
<産業廃棄物対策課> 國枝課長
<環境政策課> 永瀬主幹、加藤主幹、前田係長、岡本係長、上川原
主事
<環境監視センター> 安原所長
<公園緑地課> 上田主幹、坪井主幹

傍聴者 3 名

1 委嘱辞令交付

2 開会 あいさつ（市民環境局 三木参与）

（会長）時間に限りがありますので、ごあいさつは、省略させていただきます
て、早速、議題に入りたいと思います。なお、この会議の議事録署名委員とし
て、阿川委員、市田委員のお二人にお願いしたいと思います。また、本審議会
は、公開としており、本日は、3人の方に傍聴に来ていただいております。

3 議 事

（会長）それでは、まずはじめに議事（1）環境基本計画重点施策の19年度
実施結果及び20年度の実施予定について事務局から説明をお願いします。

（1）環境基本計画重点施策の19年度実施結果及び20年度の実施予定につ いて

（事務局）資料Ⅰ 環境基本計画重点進行状況により説明

（会長）ご説明のありました内容について、ご質問ご意見等は、ありませんか。

(委員) 4 地球温暖化対策ということで、ノーマイカーデー運動に取り組み5月と10月に実施したということで、かなり高い率のようですが、これは、5月中ずっと取り組んだのか、それともこの日ということで決めて取り組んだのでしょうか。

(事務局) 岡山下統一ノーマイカーデー運動ということで、ノーマイカーデーのデー1日を設定しています。具体的には、最終の金曜日ということです。

(委員) 1日されて、高い取り組み率が達成できるのであれば、1日といわず、例えば1ヶ月間とか、もうずっと続けるとかして全体的に排出量を減らすよう取り組みを広げて欲しいと思います。

5 廃棄物対策のところ、ガス化溶融炉で資源化されるという話でしたが、ごみとして出すことによって資源化されると、ごみを出せば出すほどリサイクル率が上がるという考え方に逆になってしまうのではないのでしょうか。ごみ袋の中に相変わらずペットボトルが入っていて、むしろ、ガス化溶融炉にしてみればそれがあることによって燃料としても有効だといえます。それでは、市民の意識向上という面からすると逆効果になってしまうのではないのでしょうか。そのところをきちっと啓発という取り組みをしていくことが必要ではないかと思います。

3 有害化学物質対策のところ、ベンゼンについて松江大気局のほうで、環境基準がクリアできていなかったということでした。説明では、企業と協力して進めるとのことですが、環境基準は、決まっているので、それをクリアできるようにもっと強力に取り組を進めてもらいたいと思います。

(会長) ノーマイカーデーを設定することによってその後、毎日とは言わなくても、車で来る確率が少し減ったとかというような実績は、ないですか。ただ、その日は、運動の日だから一時的に自動車に乗ってこないのか、やっぱり自動車より自転車のほうが結構いいので、車をやめたとかそういう調査をしたものとかはありませんか。

(事務局) 自転車とかに変わったという調査は、実際、まだしておりません。職員の方からこれをきっかけに自転車にしたという話も聞きますが、どれくらいの割合でというのは、確認しておりません。

(会長) 効果も1日だけの効果でなく持続的な効果にしてもらいたいと思いま

す。ごみの問題についてですが、岡山に移ってきた人に聞いてみても、ごみの分別について、岡山は、外の地域に比べてごみの分別が楽だと聞いたりしますので、これについては、トータルなコストでどうなのか、トータルな資源運用の問題としてどうなのかという評価をしていく必要があるかと思います。意識の逆効果でないかというご指摘に対しては、どのようにお考えでしょうか。

(事務局) エコワークスで処理すれば、リサイクル率は、自然と上がりますが、市としては、それでいいとは思っておりません。そこから出てくるものは、合成ガス、スラグ、メタン、金属水酸化物ということで、もともとのごみとして出された材料をそのまま再資源化できるものではありません。大半は、スラグという小さい石粒になってしまいます。スラグは、路盤材などにリサイクルされていますが、全く違うものになってしまう。それよりは、紙は、もう一回、再生紙として使う、布についても同じといった素材を生かしたリサイクル、資源化が望ましいと考えております。そのために市では、5種14分別に取り組んでいますが、燃やせるごみの中に入っている資源ごみを資源ごみとしてきちっと出すことを中心にお願いしています。それでもなお出てきたものについては、最終的な手段としてのエコワークスの活用という形で考えています。まずもって、ごみを出さないことが一番で、それでもなお出てきたものについては、ちゃんと分別して資源化できるものは資源ごみとして出してもらうということを強く啓発していきたいと考えています。

(委員) 倉敷市の回収するステーションでは、基本的にペットボトルが回収されていません。市として5種14分別に取り組んでいるのならペットボトルも回収するような日を設けるとかして、もっと徹底してやってほしいと思います。

(事務局) ペットボトルについては、資源ごみに入っているのですが、出し方が、ごみステーションではなくリサイクル協力店という店舗例えばコンビニやスーパーの窓口に回収ボックスを設けており、そこへ出すようお願いしています。

(委員) そのところの啓発とか、より市民が出しやすいようにすべきです。なかなか店まで持っていくのが大変なので、そうしたところを徹底的に回収できるよう配慮をお願いしたいと思います。

(会長) 現実に徹底させることは、決して楽なことではありませんが、できる限り取り組んでいただきたいと思います。もう一点の有害化学物質ベンゼンに

ついてはいかがですか。

(事務局) ベンゼンにつきましては、19年度の白書でも環境基準を超過している状況にあります。19年度は、県条例に定めるベンゼン排出事業者に対し立ち入り及び文書指導をしております。この条例に関しては、濃度規制等ありませんが、施設についての削減計画を出させるように条例でなっていることから、その削減計画と実際取り組んだことの確認を行っております。今年度も各社から削減計画を出していただいております。昨年度の実施状況につきましても報告をいただくようになっております。これにつきましては、8月に公表を考えております。

(委員) 4 地球温暖化対策のうち太陽光発電システムについてお聞きします。達成目標が住宅3,000戸に設置されている状態にしますとありますが、平成18年度までに774件、平成19年度が227件なので、その合計は、1,000件ほどです。一方、資料には、平成18年度末現在の市内の住宅用太陽光発電システムの設置件数は、2,412件とあります。この件数は、設置費用の補助申請をしなかったところも含めての件数でしょうか。市が補助する以前に1,400件もの家が実際につけていたということでしょうか。それと、年間300件補助できるということにしてあっても、200件しか応募がなかったということは、よほど審査が厳しいのか、補助金が少ないのかどちらかだろうかと思いますが、どうでしょうか。

3 有害化学物質対策のところで、内分泌かく乱化学物質の問題ですが、ある地域で水道水の中に低用量ピルの女性ホルモンが入っていたことがニュースになっています。倉敷市は、かつてそれを調べたことがあるのかどうかということをお心配しています。今ここでは、平成19年度、環境省の動きをみて情報収集を行うとなっておりますが、最近、不妊の夫婦がとて増えている。それに直接、間接、そういう内分泌かく乱物質低容量ピルの化学合成ホルモンが影響しているのかなというような多少疑いが出ておまして、おそらくこれが大問題になった時には、既に手遅れではないかという心配をしているところです。

2 安全で自然豊かな水環境の保全のところで、公共下水道の普及率を最終的に69.4%にしますという達成目標があるのですが、出てくる数字が、64.5とかとか65.5にすると、数字が低いようです。市内の末端に行けば行くほど工事をしてその恩恵に預かる住宅は少ないと、さらに平成の大合併でさらに市域が広がってしまったということで工事の進捗率が非常に悪いと思うのですが、やはり自然環境、地域環境を守るということであれば、最終目標は、やはり100%であるべきだろうと私は思います。

4 地球温暖化対策のノーマイカーデーですが、1日だけのノーマイカーデーを大学でも実施しました。わずかばかりの効果はあったようですが、今もっと効果が出ているのは、ガソリン高騰で、徒歩にした、自転車にしたというようなことで、ガソリンによる影響のほうがもっと効果があるような気がしますので市でもそれが出てくるかなという感覚を持っています。

(会長) ペットボトル、ノーマイカーデー、下水道普及率をもっと高い目標としてできないか、内分泌かく乱化学物質として低用量ピルの問題とかありましたが、この問題につきましては、相当、医学的な疫学調査が必要になりますが、もしご意見がありましたらお願いします。それでは、下水道の普及率をもっと高められないかについてですが、もう少し下水道整備を行わないと環境、水質の浄化にならないのではというご指摘ですが、いかがでしょうか。

(事務局) 下水道が同席しておりませんので、下水道を100%にすることが現実的であるかということについてはお答えできませんが、現状として、下水道普及率が上がるコストパフォーマンスの高いところを中心に整備しています。現状、残っているところがなかなか普及の難しい農村地帯であるとか、そういったところの整備であることから、数字として1年に上がる率の上昇が見えない部分があるかと思います。

内分泌かく乱物質の問題ですが、これも一物質について健康影響とかについて明確に出ていない研究中であることから、水道局での調査があるかどうかは、今わかりませんが、岡山県において調査しているものであるとか、環境省の発表する情報であるとかそういうものを倉敷市として情報収集して研究していくことにしております。

住宅用太陽光発電の件数についてですが、平成16年度から平成18年度までに倉敷市が補助した件数が774件、平成19年度に倉敷市が補助した件数が227件、トータルしますと約1,000件、市が補助した件数になります。その下の2,412件の数字の出所は、中国経済産業局からデーターをもらったもので、倉敷市内の太陽光発電の電灯契約を結ばれた件数です。市が補助したものが、約1,000件、実際についているのが、約2,400件、その差の約1,400件は、市が補助する前に補助を出していた新エネルギー財団の補助を活用して設置したもの、あるいは、独自でつけられたものになります。平成19年度の補助実績が227件で、少ないのではないかとしましては、平成18年度までは、補助単価を発電能力1kw当り3万円でした。平成18年度は、申請件数がかなり多く途中で予算がなくなり補正予算の対応をしたと

ということでかなりニーズがありました。それを踏まえて、限られた財源でできるだけ多くの方に利用していただきたいということで、平成19年度から単価を半分の1万5千円に下げています。平成19年度の申請が少ない原因として、補助単価が下がったことが原因なのか、あるいは、住宅メーカー、太陽光システム販売事業者に話を聞くと、発注自体が冷え込んでいるという情報もあります。倉敷市よりももっと補助金の単価が高い他市でも、同様に件数が、冷え込んでいるという情報を入手しておりまして、補助単価の引き下げが、すなわちこの数字に結びついたかどうかということは、今の時点で判断できておりません。なお、平成20年度は、同じ単価で同じ目標値で設定しております。実際、市が補助して設置していただく件数と中国経済産業局の全体の件数を見比べていけば、ある程度市の補助効果というものを検証できると思いますので、そういったものを見ながら今後、制度設計をしていきたいと思っております。

(委員) 市のマイカー通勤者の駐車料金は、1ヶ月いくらでしょうか。

(事務局) 月4千円から5千円ぐらいでしょうか。

(委員) 政策的に、マイカー通勤者の駐車料金を上げればどうなるか、ということは、すぐお分かりだと思います。

(委員) 生ゴミについて、お尋ねします。一つ目は、生ゴミ処理機に1万円の補助金を出すというのですが、年間の予算はどれくらいを見込んでいるのかということ。二つ目は、生ゴミを減らしてしまうとゴミを処理する方で困らないか。三つ目は、現在、生ゴミを堆肥化だけじゃなくて高騰するエサなどに戻してはどうかという動きが、民間の中でかなり意欲的にあるのですが、生ゴミを集めようとするすると運搬業の許可が降りない。また、ゴミの争奪戦があって、なかなかゴミが回っていかないということがあります。そういった動きに対し、生ゴミ処理機に補助金を1万円出すということだけでいいのでしょうか。以上の三つの点をお尋ねします。

(事務局) 補助金の件数につきましては、平成18年度の補助金申請基数を参考に申し上げますと年間約300基です。お尋ねのあった補助金の件につきましては、生ゴミの減量の話と生ゴミのリサイクルの話が、一緒になっていたものかなと思いますけれども、堆肥化容器を補助するのは、生ゴミをリサイクルして堆肥化にするという意味もあるのですけれども、そういうことよりも家庭の中で減量をしていただくということを一番に考えております。生ゴミを大規

模でリサイクルするという話をきいたことがあります。堆肥化したあとのその堆肥の活用の問題があるとのこと。そのまま畑や田に蒔くと植物に影響が出るという話を聞いております。また、集めた生ごみを堆肥にするためには前処理がデリケートであると聞いております。生ごみを減らすことは、リサイクルだけでなく、不要なものを買わない、食べ残しをしないということが基本だと考えており、そういったことを積極的に今後呼びかけていこうと考えております。

(委員) 生ごみの堆肥化については、あまり良いことは、聞いていないということですね。

(事務局) 理想的な話だとは思いますが、出前講座等で食べ残しをしないように食育含めてごみを出さないように言っています。

(会長) 生ごみが減るとエコワークスの処理がどうなるかについては、どうですか。

(事務局) ごみを燃やすことによって、有害なものが発生しないようにいろいろ薬剤とか処理をしております。ごみを減らせば、そういうことにお金をかけずに処理できることになります。ただ、施設運営については、今の能力の構えがあることから一定の金額は、かかりますが、できるだけごみを減らせば、ごみが増えることによってかかる薬剤とかの経費は、減らせることができるのではないかと考えております。

(委員) 生ごみをリサイクルするには、先程の否定的な問題がたくさんあるけれどもそれを解決して開発したいなという意欲的な団体があるのですけれども、いざ、それをやろうとすると、当然、事業計画、生ごみの集まる量とかを考えるのですが、それが集まらない。もう、エコワークスに持っていけばいいんだよ、それで採算があうのだからいいんだよという話になってしまいます。それに対しては、どうですかということなのですが。

(事務局) エコワークスに持っていけば、リサイクルが済むのだという観点でおられたら、先程の話でもあったように、決してそこで処理することが万能だそれが一番いいんだという話ではないと思います。

(委員) 何か施策があるのですかということが聞きたいのですが・・・。

施策は、無いと言うことですね。

(事務局) 今のところ、生ごみの制度は、補助金と啓発という話になります。

(委員) ペットボトルのことでひとこと。各町内には、環境の組合があると思いますが、その組合長が市へ申請すれば、ペットボトルについて、業者から1kg当り10円と市から6円の補助金が出るシステムがあります。そういうことを組合長から指導してもらえば、町内の資金にもなりますしいいことだと思います。エコバッグの推進については、なかなか進まないと実感しております。スーパーで出ている袋でゴミを出しても回収してくれるので、その袋を使えば楽だということで、マイバッグを推進してもなかなか進まない現状があります。

堆肥化容器の補助制度についてですが、容器は、消耗品であるから壊れることもあります。しかし、市へ一度申請したら、2度出ないことになっているので、何年かたてば、再度、補助してもらえないようにならないのでしょうか。

水質浄化については、EM菌で作った団子とか活性液を流して浄化しています。環境問題は、難しい面もあるかと思いますが、身近なところから各自が、町内が、市が取り組むことが大切ではないかと思います。

(委員) 温対法が改正され、市で見直しというのがありましたが、どういうスケジュールで見直しを考えているのか。審議会の委員の意見を反映してよりよいものになるのかということをお聞きしたいと思います。

(事務局) 温対法の改正を受けてということでございますが、これまで市からの排出だけを対象としてやっておりましたが、これに加えて、市の事業を含めた計画を入れていくということでございます。このスケジュールにつきましては、国のガイドラインがこれから出るのではないかと考えており、これを取り入れながら前向きな姿勢でやっていきたいと考えております。機会につきましては、改正の途中になるかどうかわかりませんが、審議会のほうへも報告あるいは、ご意見をいただくことを考えております。その節は、よろしくお願いいたします。

(会長) 廃棄物ごみの問題は、いろいろな局面でいろいろな問題がそれぞれ相容れる形で出てくる可能性があります。一度、ごみの発生から排出、回収、処理、中間処理、そして最終処分の一連の流れの中でそれぞれどのような方策がとられていいのか、どのような関係があるのか、トータルとしてみて倉敷市の

規模でどのような回収が、最もベターなのかそういう研究、解析をしてはどうでしょうか。個々の側面だけを捉えて議論するのでなく、倉敷市としてのごみ対策は、こうするのだというような形で研究が必要ではないでしょうか。ぜひ、半年ぐらいかけてお願いしたいと思います。その他にもいろいろとご意見等あろうかと思いますが、あとまだ残っておりますので次に移ります。(2) 光化学オキシダントについて事務局からご説明をお願いします。

(2) 光化学オキシダントについて

(事務局) 資料Ⅵ 光化学オキシダント情報等発令回数増加の検討報告書により説明

(委員) オキシダントの現状がよくわかりました。こういうことを発表する場面は、あるのでしょうか。ぜひ、これを発信する機会はないのかお尋ねをします。

(委員) 一番ふさわしいのは、大気環境学会誌でしょうか。情報として提供することができると思います。ただ、学会誌は、難しい理屈を展開していないと論文としては受け付けられないような傾向があるようですが、そういう難しい論文ではなくて、情報という意味で発表することはいいことだと思います。

(委員) オキシダントの問題は、大陸からの影響もあろうかと思いますが、工場からの排出の影響が大きいと思います。倉敷市として、きちっと工場なり自動車の排出対策なり立てていくことが必要だと思います。このことは、地球温暖化防止のことともかかわってくることであります。

(会長) 続きまして、環境月間行事についてお願いします。

(3) 環境月間行事について

(事務局) 資料Ⅶ 平成20年度環境月間行事

資料Ⅷ リサイクルフェアくらしき2008により説明

(会長) ありがとうございます。

続きまして、その他として何かありますか。

4 その他

(事務局) 次回は、秋口以降に考えております。

(会長) 各委員から何かありますか。

(委員) 今年の3月か4月でしたか、水道局のアンケートがありまして、その中の項目に「あなたの家庭では、飲み水として水道を使っていますか、それともスーパーで売っている水とか無料で提供している水のどちらを飲んでいますか」というかなり興味深いアンケートがなされたようですが、その集計結果は、いずれ公表されますか。

(事務局) 確認をさせてください。

5 閉会

あいさつ (市民環境局環境部 柵屋参事)

議事録承認

会 長

⑩

署名委員

⑩

署名委員

⑩